

## 教科横断型授業を通して

### 1-1. 生徒評価（対象生徒 2学年12名）

|                                                     | できた<br>思う | だいたいできた<br>やや思う | あまりできなかった<br>あまり思わない | できなかった<br>思わない |
|-----------------------------------------------------|-----------|-----------------|----------------------|----------------|
| ① 今回の授業のねらいを理解できた。<br>（1つの教科だけの話ではなく、他の教科ともつながっている） | 4         | 8               | 0                    | 0              |
| ② 乳製品の歴史について理解できた。                                  | 4         | 7               | 1                    | 0              |
| ③ タンパク質について理解できた。                                   | 2         | 8               | 2                    | 0              |
| ④ 実験操作について理解できた。                                    | 5         | 6               | 1                    | 0              |
| ⑤ グループで協力して作業できた。                                   | 5         | 7               | 0                    | 0              |
| ⑥ グループ内で今回の内容・結果を共有できた。                             | 5         | 6               | 1                    | 0              |
| ⑦ 実生活へのつながりを感じることができた。                              | 4         | 8               | 0                    | 0              |
| ⑧ 今後もこのような授業をしてみたいと思う。                              | 8         | 4               | 0                    | 0              |

### 1-2. 生徒感想（一部抜粋）

- ・作り方が簡単で驚いた。家でも作ってみたいと思った。
- ・バターやチーズの作り方を初めて知った。バターがおいしかった。
- ・豆乳と牛乳で味が違うのでおもしろかった。
- ・ピンを振るのはたいへんだったけど、バターが一番よくできた。
- ・あまり話さない人と話すことができた。
- ・バターミルクがおいしかった！ けどホエーはおいしくなかった。
- ・チーズに塩が一番合った。
- ・みんなと楽しみながら作業することができた。

## 2. 教員より（反省点・今後の課題等）

・初めての試みであり、計画や準備が不十分なところもあった。生物基礎では、タンパク質の内容は2学期中旬に行っており、生徒によっては内容を忘れていたため、また、タンパク質・アミノ酸の役割なども、「理科的」な内容でしか学習していないため、進度の面だけではなく、学習内容においても他教科と連携・協議して、もう少し計画的に行う必要があると感じられた。（理科）

・横断的な学習を小規模校で実践できることの喜びを感じながら当日を迎えた。地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考えさせたかったが、生活圏としての諸課題についての資料が薄かったため、生徒の理解度に疑問が残った。次回は、球面上の世界のとらえ方に慣れ親しませるように工夫して、生活文化圏の歴史との因果関係について考えさせられるように発問を検討したい。しかしながら、当日は家庭科を中心に横断的学習が展開できた。また、理科の特性と家庭科との関連性を活かしながら楽しい授業が実践できたので、とても充実した一日だった。（地歴公民科）

・理科で説明のあった必須アミノ酸の話から、家庭科のたんぱく質の補足効果、組み合わせて食べることの大切さへつながり、地歴公民のモンゴルの乳製品の話から、家庭科の牛乳の加工品へとつながり、乳製品に関する実験を行った。内容が多岐にわたったので、生徒がより理解しやすいように内容や方法を検討する必要があると感じた。

生徒にとっては、各教科で学んでいる知識や技術が、それぞれ関連を持っており実生活で活用されること、学び方を知るきっかけになったのではないかなと思う。また、複数教科の担当者が、協力して授業を行うため様々な視点からの生徒へ声掛けや目配りも良くなったと思う。横断的学習は小規模校こそ実践しやすい学び方であると思うので、機会があったらまた行いたい。（家庭科）